

## <金標準先物、FOMC に向けた金利引き上げを織り込む・・・>



(出所：オアシス)

NY 連銀製造業景気指数が4ヶ月ぶりに増加に転じ、バーキン・リッチモンド連銀総裁も「インフレ率が金融当局の目標である2%まで鈍化することを示すさらなる証拠が必要」とタカ派の発言を行なっている。そのためCPIやPPIなどインフレ指標が軟化していたことで、広がっていた近い将来のFRBの利上げ停止観測が後退したことが背景となり、NY金が2000ドルを下回っている。特にFFレートに近い短期2年債が4%を超える金利の上昇を見せると一時NY金で1970ドルを一時割り込むなど2週間ぶりの安値を見せている。

特に英国のインフレ率が10%を超える状態を維持した事で5月に行われるイングランド銀行の継続利上げ観測も高まり、ラガルドECB総裁もインフレは依然として高過ぎると述べ、4日開催のECB理事会では0.5%の利上げ観測が高まりを見せている。特に週末に発表された米国製造業PMIでは50を上回る結果を受け、FOMCでも0.25%の利上げが90%まで確率を上げており、目先金利高の動きに金標準先物は戻り売りの値動きが強まると思える。

### <テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが下がりながら、シグナルを下回るなど峠を越えた動きを見せている。またRCIでは短期が下げているが、長期は依然と高い水準を維持するなど、リバウンドに注意しながら戻り売りの対応が無難に思え、8600円以上は売り狙いが妥当と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,670,000 円(2023 年 4 月 24 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 39,160 円(2023 年 4 月 24 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>